-JOIN の目指すやさしい日本語とじょんなびのコラボ-

2024 年３月５日（火）**上越タイムス・JCV　News Link　で報道されました**

世界の人とやさしい日本語で話そう！
～「あっ地震！」そのとき あなたは？？～

JCV News Link

「防災のやさしい日本語」講義

やさしい日本語で「防災」の講義

３人一組に分かれて、やさしい日本語で話し合い

上越タイムス

「やさしい日本語」で防災情報を伝える

海外出身者ら　身を守る方法学ぶ

上越国際交流協会

上越国際交流協会（JOIN）は3日、上越市西本町3の無印良品直江津内「Open MUJI」で、「やさしい日本語」を通じて海外出身者へ防災について伝え学ぶイベントを開いた。多人種化、多言語化が進む上越で、はっきり、最後まで、短く伝える「やさしい日本語」の普及を図っている同協会。今回は「災害から身を守る」をテーマに、あらゆるコミュニケーション手段を使い、災害時の確かな情報把握と身を守る方法について教えた。

同日は上越市在住の海外出身者ら30人が参加。3人ごとにグループを作り、ハザードマップの把握、非常持ち出し袋に入れる物の確認、多言語指さしボードの活用をそれぞれ進めた。ハザードマップについては「海抜」の意味や避難所となる学校名が読めないなどといった声もあり、分かりやすくかみ砕いて伝えたり、ジェスチャーやスマートフォンの翻訳アプリを活用したりして説明した。

フィリピン出身のキイロス・ラセロさん（40）は元日、大潟区の家で地震に遭い、日本人の夫や3人の娘と共に近くの空き地へ避難したという。「ずっと鳴っている津波警報の音が怖かった。ハザードマップについて知っていたけれど、今回じっくり見て知る機会ができて良かった」と話した。

JOINで外国人へ医療に関する言葉の支援「じょんなび」を担当する倉辻厚子さん（74）は、「少しずつでも分かりやすく伝えることは、優しい社会にもつながる。これからもやさしい日本語を広めていきたい」と願った。

海外出身者らを交えて防災について学習。住んでいる地域の避難所や備蓄すべき物資などについて、「やさしい日本語」で伝え、一緒に考えた